

<p>標 題</p>	<p>来期に向け、部会員が一致団結 ～JAしまね出雲ぶどう部会～</p>
------------	--

(ダイジェスト)

JAしまね出雲ぶどう部会は、11月12日、令和元年産ぶどう出荷反省会を開催し、令和2年産加温デラウェアの主産地として、「改植・密植で増やそう反収1,300kg」、「産地の証出荷量1,000t」、「みんなで目指そう 赤秀比率90%」、「1,300円/kgで買ってもらえるぶどうを！」の4つの目標を掲げ、生産者・市場・関係機関が一丸となって取り組んでいくことが確認されました。

島根デラウェアの主産地である、JAしまね出雲ぶどう部会は、11月12日、大社文化プレイスうらら館にて本年産のぶどう出荷反省会を開催し、部会員、関係者約230名が出席しました。

今年度の県全体の出荷実績は、デラウェアの税別単価1,300円（対前年比108%）が達成され、シャインマスカットについても、出荷量、販売額ともに前年を上回り、特に販売額は3億円を超えました。出雲地区本部管内においても、デラウェア、シャインマスカットともに、単価は前年、前々年を上回る状況になりました。

デラウェアが単価の面で躍進できた要因の1つに、部会の女性部、青年部が中心に取り組む、ぶどうプロジェクトの販売戦略チームが早期出荷に向けた対策などの情報をタイムリーに部会員へFAXで伝達したことが挙げられます。

一方、産地全体の出荷量は、市場が求める1,000tを割り込む状況になり、市場関係者からは、デラウェアについて小売りからの引き合いが強い6月の商品の供給を強く要請されました。

出雲農業普及部としては、ぶどうプロジェクトが円滑に進むよう、優良系デラウェアをはじめとした改植を進めていくとともに、苗の育成や管理について講習会を実施するとともに、継続して関係機関と連携しながら、部会のスローガンの達成やぶどう産地の活性化を支援していきます。



部会長あいさつ



活性化プランの状況報告